○　委員長報告

６月定例本会議で報告された農林水産委員長報告は、以下のとおりです。

令和元年６月定例会

農林水産委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第１点は、６次産業化の取組みについてであります。

このことについて一部の委員から、県が支援した６次産業化商品の売上状況、成功事例、今後の取組方針はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県では、平成 26 年度に６次産業化サポートセンターを設置し、チャレンジ総合支援事業を活用しながら、様々な相談にきめ細かく対応しており、平成 27 年度から 30 年度の間に新規開発された 36 商品の売上合計は、昨年度、約 4,900 万円に上っている。

成功事例としては、平成 29 年度に全日空ファーストクラスの機内食に採用された調味料「塩みかん」をはじめ、宇和島市の「きぬ青のり」、道後のホテルで食材として採用された湯葉などがある。

今後は、より売れる商品の育成に重点を置き、一つでも多くの成功例を生み出すことで、農林漁業者の意欲向上と所得拡大につなげたい旨の答弁がありました。

第２点は、県ブランド産品の供給体制と営業戦略についてであります。

このことについて一部の委員から、県ブランド産品の現在の供給体制はどうか。また、トップブランドの産品について、今後、どのような営業活動を行っていくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、愛媛甘とろ豚、媛っこ地鶏については、販売に応じた供給体制が整っている。

さくらひめについては、連続出荷できる栽培体系を確立し、今年度からその普及を図っており、紅い雫については、施設化等への支援を通じて作付け拡大を促すなど、生産拡大に取り組んでいる。

また、伊予の媛貴海、愛媛あかね和牛などのトップブランドの産品については、贈答用として百貨店などをターゲットにした営業を展開しており、今後とも、生産者のメリットを最優先に考えながら、生産振興と販売促進のバランス

を考慮した営業活動に努めたい旨の答弁がありました。

第３点は、水産物の生産・販売状況についてであります。

このことについて一部の委員から、今年の真珠の販売数量と金額、養殖ハマチ、マダイの価格動向はどうか。また、海外に向けた愛育フィッシュの販路拡大にどう取り組んでいくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、平成 30 年度の真珠の販売数量は 6,940 kg、金額は平成 12 年以降最高の 61 億円となり、13 年連続で日本一となっている。養殖ハマチ、マダイについては、ともに一時はキロ当たり千円を超えていたが、現在は、ハマチが 850 円、マダイが 870 円程度で落ち着いている。

海外に対しては、今後、愛育フィッシュの品質の良さを浸透させながら、中華系富裕層などをターゲットに、県開発の「大型ブリ」や「みかんフィッシュ」等を戦略商品として、需要拡大につながる「食」の提案や既存商流の拡大に、官民一体となって取り組んでいきたい旨の答弁がありました。

このほか、

・ため池の緊急点検状況と今後の取組み
・県が有する柑橘品種等に係る知見の流出対策
・境界不明森林への対応
・道前道後平野用水施設の保全対策
・試験研究機関の技術職の人員確保

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。